

1. 略歴

- 1989年3月 東京外国語大学外国語学部スペイン語学科 卒業
1989年4月 東京外国語大学大学院外国語学研究所修士課程入学（ロマンス系言語専攻）
1991年3月 同 修了
1991年4月 Centro de Estudios Literarios, Instituto de Investigaciones Filológicas de la Universidad Nacional Autónoma de México [メキシコ国立自治大学文献学研究所文学研究センター] 訪問研究生（メキシコ政府交換留学生として、～1992年2月）
1992年4月 東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程進学（地域文化専攻）
1995年3月 同 単位取得退学
1996年4月 法政大学経済学部助教授
2002年4月 Centro de Estudios Latinoamericanos Rómulo Gallegos [ロムロ・ガリェーゴス・ラテンアメリカ研究センター、ベネズエラ] 客員研究員（～2003年3月）
2004年4月 東京外国語大学外国語学部助教授
2007年4月 同 准教授
2009年4月 東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授（大学院重点化による）
2012年4月 同 教授
2013年10月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2017年4月 同 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

スペイン語圏の文学、ラテンアメリカ思想文化論。

b 研究課題

知識人たちの環大西洋的ネットワークの形成。

c 概要と自己評価

研究課題である環大西洋地域を横断する知識人たちのネットワークの形成と個々の活動、その表現の様態についての研究は、2020年3月まで科学研究費の研究助成を受けていた。2019年11月に刊行した『テキストとしての都市 メキシコ DF』の一部はこの助成の成果でもある。助成期間は終わったものの、研究はなお進行中である。

d 主要業績

(1) 著書

柳原孝敦『テキストとしての都市 メキシコ DF』東京外国語大学出版会、2019、全272頁

(2) 論文

柳原孝敦、「コスモポリタンな欲望 ブエノスアイレス—パリーブエノスアイレス」、『れにくさ』、9号、145-156頁、2019.3

(3) 研究ノート

柳原孝敦、「翻訳と書き換え—「死とコンパス序説」、『れにくさ』第10-1号589-596頁、2020.3

(4) 書評

ホルヘ・フランコ／田村さと子訳、『外の世界』、作品社、『週刊読書人』、4月13日号、5面、2018.4

星野智幸、『焰』、新潮社、『文藝』、8月号、506頁、2018.5

神里雄大、『バルパライソの長い坂を下る話』、白水社、『新潮』、7月号、304-305頁、2018.6

マヌエル・アサーニャ、『ベニカルロの夜会—スペイン戦争についての対話』深澤安博訳、法政大学出版局、2019、『週刊読書人』11月15日号、3面、2019.11

マリオ・バルガス=リョサ、『プリンストン大学で文学／政治を語る—バルガス=リョサ特別講義』、河出書房新社、2019、『週刊読書人』2月21日号、4面、2020.2

(5) 総説・総合報告

柳原孝敦、「現代メキシコ文学への招待—時代に呼応する文学の流れ」、『現代メキシコを知るための70章』、282-285頁、2019.1

柳原孝敦、「スペイン語文学の現在（グローバル化の時代を読む）」、『NHK ラジオテキスト まいにちスペイン語』
連載、2019.4～2020.3

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本イスパニヤ学会理事（広報担当）2014.4～2018.3